

支 援 事 業  
報 告 集



愛芸アシスト基金

2020  
年度

## ご賛同いただいた皆様へ

日頃は愛芸アシスト基金にご支援を賜り、まことにありがとうございます。  
また本学の展覧会や演奏会にも足をお運びいただき、心より御礼申し上げます。

本学は、半世紀にわたりこの中部、東海地域の芸術文化の発展に寄与すべく  
尽力してまいりました。これまで美術・音楽の両分野より、芸術家・研究者・  
教育者等、日本のみならず世界で活躍する卒業生を輩出しております。これも、  
県民の皆様や地域の皆様、なによりこの愛芸アシスト基金にご賛同をいただき  
ました皆様のご理解があつてのことと考えます。

本学はこれからも、将来の芸術文化を担う人材を育成すると同時に、大学自  
らも芸術活動を通して地域に貢献していく所存です。今後とも皆様に愛される  
大学となるよう、一層の努力をしてまいります。変わらぬご支援を賜りますよ  
う、よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自制と忍耐が求められる日々が続  
いております。どうかくれぐれもご自愛ください。

愛知県立芸術大学 学長  
戸山 俊樹



## 2020年度 愛芸アシスト基金 支援事業日程表

### 01

オペラ公演 歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》

令和2年12月5日(土)、6日(日)

長久手市文化の家

令和2年12月12日(土)

パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)

### 02

愛・知・芸術のもりから

令和2年8月～令和3年3月 計7回

SMBC パーク栄

### 03

愛知県立芸術大学サテライトギャラリー SA・KURA での展覧会支援

令和2年9月～令和3年3月 展覧会開催回数：8回

愛知県立芸術大学サテライトギャラリー SA・KURA

### 04

障害者福祉支援事業としての陶芸アート

令和2年11月10日(火)、12月1日(火)、令和3年2月16日(火)

布袋病院 デイケアセンター風

## 01 オペラ公演 歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》



コロナ禍において、そもそも大学オペラ公演は出来るのか？いつもなら音楽稽古を始めているはずの4月や5月、大学は休講を余儀無くされ、合唱関連のクラスター発生のニュースを聞いたび不安ばかりが募りました。しかし、換気等の感染防止対策を講じたうえで6月、対面による音楽稽古がようやく始まりました。指揮の佐藤正浩先生や演出の飯塚励生先生ら先生方の熱心な指導により、いつしか稽古で聞こえてくる音楽もより生き生きしたものとなっていきました。

観劇可能人数を実際のホール収容人数のおよそ半分にし、舞台裏やオーケストラピット内での密を避ける観点から合唱、管弦楽無しのおペラ公演を開催すると決めたものの、愛知県とその近県における様々なオペラ公演が相次ぎ中止となる中、感染防止対策を中心に例年以上に各スタッフ、開催ホール側と協議を重ねました。舞台においても、大道具を操作する人間を極限まで減らさざるを得ませんでした。その状況下において、佐藤直木准教授率いる舞台美術チームが、バトンに吊りした格子状のパネルを舞台上に効果的に

配置。出演者同士の距離を保ちながら、違和感のない演出も大変好評でした。また、佐藤正浩先生のチェンバロ弾き振り、山本敦子先生のオーケストラのようなピアノ、録音で参加してくれた弦楽器、打楽器専任教員と学生による器楽アンサンブルや声楽専攻学生による合唱、ロビーや舞台裏の沢山のスタッフ等々、多くの人たちの熱意と献身的な働き、さらにそれを支えて下さった愛芸アシスト寄附者の皆様の温かい志によって終演することが出来ました。本当に有難うございました。

大学オペラ2021は、モーツァルトのオペラ・セリアの傑作、《イドメネオ》を取り上げます。本年度も引き続き感染対策に十分留意しながら、長久手、西三河地域の皆様にお楽しみいただけるよう稽古を進めてまいります。さらなるご支援を心よりお願い申し上げます。

初鹿野 剛(大学オペラ制作責任者)



## 02 愛・知・芸術のもりから



「愛・知・芸術のもりから」は、令和2年度で11年目を迎えることができました。名古屋の中心に位置するSMBCパーク栄で開催されるこのコンサートは、各専攻・コースから選ばれた優秀な本学卒業生・修了生たちが音楽を発信する舞台となっています。若い彼らは、すでに各地で活躍はじめている魅力ある演奏家たちばかりですが、このコンサートは、彼らを後押しする重要なキャリア支援となっており、また、愛知芸大の素晴らしさを広く知っていただける絶好の機会ともなっております。

令和2年度はコロナ禍でさまざまな制約があったと思いますが、結果的に、声楽、ピアノ、弦楽器、管打楽器の卒業生・修了生から計7グループが出演させていただきました。毎回満席に近いお客さまにお楽しみいただけたことに、心から感謝しております。

今後とも皆様の温かいご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

安原雅之(音楽学部長兼研究科長)



### 03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会支援



令和2年度のサテライトギャラリーSA・KURAは、4月からのコロナ感染禍の影響で休廊せざるを得ない状況で始まり、しかしながら、いつでも再開できるように感染対策として、スモークマシンを用いた換気機能のテストを実施しました。消毒液や来館者カードの記入など来館者をお願いし、9月から展示を再開しました。

「収藏品展Ⅰ Re OPENING 共鳴する絵画」(会期:2020年9月11日(金)～9月27日(日))では創立して半世紀以上が過ぎた現在から、創立時初期の卒業生の作品に着目しました。展示作品は、山名千佳子《蓮》1970、久保田裕《人物構成》1972、白井泉《Looking Movie》1974、横山恵《Facing You》1974、秦誠《エスカレーター》1976、稲垣考二《空虚な西日》1976、飯田泰子《レクイエム》1977、長谷川龍彦《機械調節器》1977、宮本英雄《9時の女》1979と第2期から10期の卒業制作品を展示しました。次に油画専攻の設楽先生の「設楽知昭退任記念展」を開催しました。退任記念展ながら会場はほぼ新作で埋められ、作家として若々しさを感じさせてくれました。

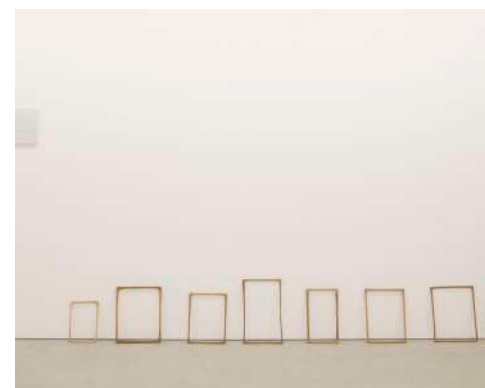
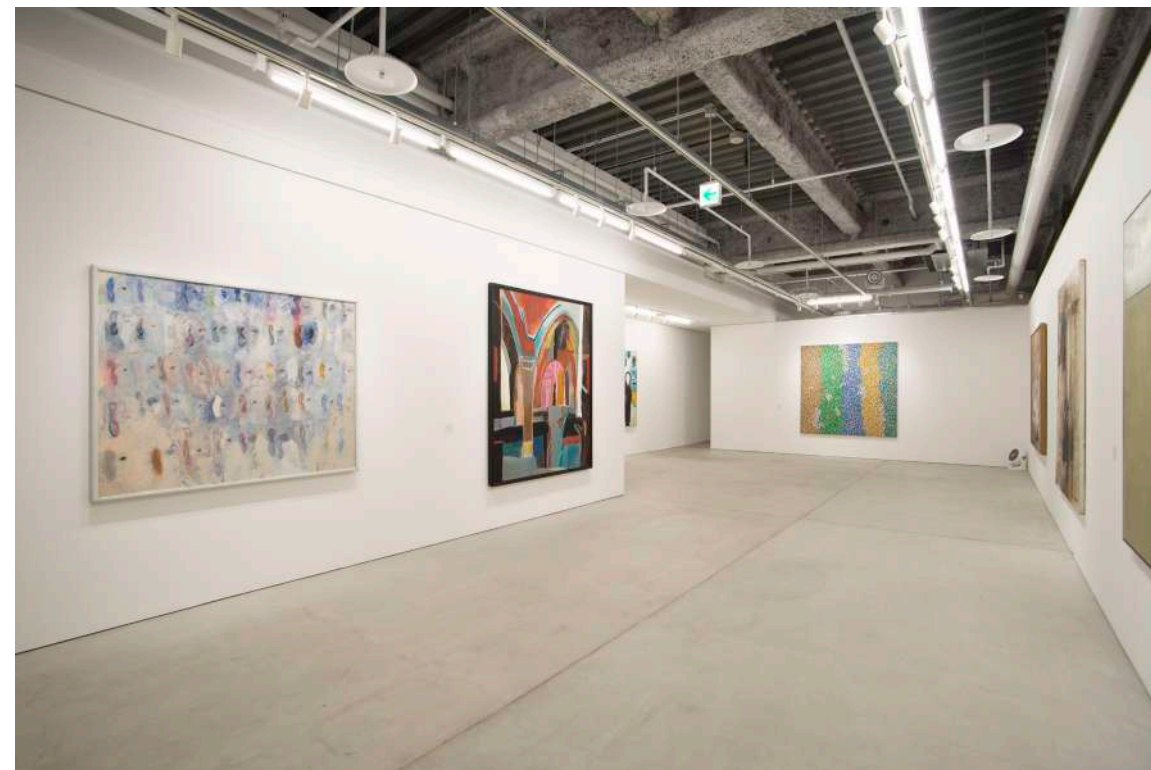
「収藏品展Ⅱ 絵画の生まれる場所」(会期:2020年11月13日(金)～11月29日(日))は設楽先生の世代以降の卒業生たち、1980年代の絵画作品展示を行いました。作品は、榎田珠実

《うさぎと一緒に捜した風景》1982、小谷浩士《闇の水面Ⅰ》1982、原勉《HorizonⅠ》1983、染谷亜里可《オーキスの部屋》1984、加藤英人《風景の見える食卓》1986、倉地比沙支《ウォッチマンのささやき》1986、長谷川繁《「UNTITLED」》1988、山本輝《田んぼのある風景》1990が展示され、80年代の喧騒から距離を置いた本学の絵画の潮流を感じさせる展覧会となりました。

本展示以降、感染状況が第2波をむかえ、いくつかの企画を断念することになりましたが、状況が落ち着きを見せた3月に入り、3月6日(土)～3月21日(日)小栗沙弥子個展「地面を壁を歩く/アフターピニエイロス」を開催しました。近年の木枠を丁寧に削っていった大小の作品群や日常の断片の素材によるコラージュ作品など、身近な静かな日常の風景がギャラリー内に現れるような空間が展示されました。

関口 敦仁(芸術資料館館長)

名誉教授 設楽知昭 先生におかれまして  
令和3年7月にご逝去されました  
ご生前のご功績を偲び 謹んでご冥福をお祈りいたします



## 04 障害者福祉支援事業としての陶芸アート



陶芸作品制作支援活動への取り組みは、愛知県芸術活動支援事業“あいちアール・ブリュット出前講座”として平成26年度より県内障害者支援施設等で実施しています。

陶芸は、表現する能力をよりよく育むための造形活動として有効な手段です。素材としての可塑性から形体が維持しやすく、制作の方法が豊かな素材です。今回の支援活動では、磁土を水ガラスなどの糊剤と混ぜ合わせて、液体化した泥漿(でいしょう)と呼ばれる状態にした粘土を使って陶板を制作しました。液体粘土の流動性を活かし、自由に流し込んで出来る様々な形から想像する面白さを取り入れた試みです。“この形が何に見えるか”といった偶然できた形から自由に発想し、その形に絵付を体験します。絵付は、170℃で焼き付けることができる陶芸用色ペンと呉須と呼ばれる顔料を使って描きました。窯で焼かれた陶板は、参加者自身の意図した通りに仕上げることができ、満足された様子でした。想い思いに制作された陶板は、ルームボードとして完成。病院施設内のお部屋に彩りが加わりました。

障害者福祉支援活動としてのアート活動は、感性と知性



が一体化した活動によって成り立つもので、知・情・意の総合的な活動であると考えています。今後も、このアート活動が、“感じる力”と“創作力(ものづくりの喜び)”を育む機会として展開していきたいと思っています。

今回、愛芸アシスト基金支援事業での活動の報告として「陶芸作品制作ノートVol.2」と題する報告冊子を作成させていただきました。陶芸を用いたアート活動が持つ効果と素材の特性を考慮した道具やプロセスに注目した取り組みについてまとめたものです。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

佐藤 文子(美術学部 陶磁専攻 准教授)

## 愛芸アシスト基金からのお知らせ

クレジットカードによる決済が可能です。

本愛芸アシスト基金は、これまでの金融機関窓口での寄附のほか、クレジットカード決済による寄附ができます。

クレジットカードによる寄附を希望される場合は、下記のURLからお申し込みください。

<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/others/other06/post-1.html>



※ご連絡可能なメールアドレスをご用意ください。

※本学のクレジットカードによる寄附は、F-REGI 寄付支払い(株式会社エフレジが運営する決済代行サービス)を使用しております。

## ご寄附の手続き

1. はじめに、メールアドレスをご入力ください。
2. ご入力いただいたメールアドレス宛に、インターネット納付用URLのお知らせをお送りします。メールを受け取られてから3時間以内にインターネット納付用URLを開いていただき、手続きをしてください。
3. 画面の指示に従い、必要事項を記入してください。最後に内容をご確認いただき、お申込み手続き完了となります。
4. 寄附金の払込み手続きをします。
5. 寄附は完了します。  
(最初にご入力のメールアドレスに寄附完了確認メールを送信します。)
6. ご入金の確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。  
(寄附金の領収書は確定申告の際に必要となりますので、大切に保管してください。)

